

高知医療センターHP:<http://www.khsc.co.jp/>

「患者さんが主人公の病院をめざして」

高知医療センターの基本理念

1. 患者さんが主人公の病院にします
2. 高度な医療を普段着感覚で提供します
3. 自治体病院としての使命を果たします

頌春



高知医療センター屋上ヘリポートより東を望む

目次 CONTENTS

新年のご挨拶 ————— ②

- 瀬戸山元一病院長

地域医療センターから ————— ③

- 地域医療連携室

各センターから

- 総合周産期母子医療センター ————— ④
- 救命救急センター ————— ⑤
- がんセンター ————— ⑥
- 循環器病センター ————— ⑦

地域医療連携病院のご紹介 ————— ⑧

- 高知赤十字病院
- おしらせ
- 編集後記

◆ 外来診療時間 ◆

午前8時30分～正午
午後1時～午後4時30分

新年のご挨拶



瀬戸山 元一 病院長
(地域医療連携本部長)

ブランディング活動と アライアンス活動

新年あけましておめでとうございます。

皆様におかれましては、それぞれに大いに期待を込めて、新年を健やかに迎えのこととお慶び申し上げます。

昨年3月1日に産声をあげました高知医療センターは、今春、1歳の誕生日を迎えようとしています。皆様方のお陰であると、ありがたく、あらためまして厚く御礼申し上げます。

さて、新年早々ではありますが、開院以来、高知医療センターが取り組んで参りました「地域医療連携」について、お話しさせていただき、新年のご挨拶とさせていただきます。

高知医療センターは、戦略的キーワードとして、ブランディング(Branding)活動とアライアンス(Alliance)活動を提言してきました。

病院運営にあたっては、21世紀の医療についての展望が必要になるだろうとも考えてきました。患者さんの権利、情報開示、医療安全などは、今後より高揚し、医療情報、快適性、医療費用などについては、さらに要望されることが想定されています。今の「医療・冬の時代」といわれている時期こそ、医療界自らの努力によって、「患者不在の医療」を崩壊させなければならないのではないのでしょうか。と同時に、医療機関のみならず、医療職員、病院運営や診療方法までも、患者さんや地域の方々からの選択肢になることは明らかです。

このような分析のもとでの戦略的キーワードとして、ブランディング活動をあげたのです。患者さんにとってのメリットを最大限に追求し、より高い評価の獲得に向けての活動が、ブランディング活動となります。そのためには、患者さんサービスの向上、医療の質の向上などが活動の課題となります。具体的には、患者さんと私たち医療職員との間には、大きなギャップがあることに気付くことも必要不可欠な条件になるでしょう。そのようななかで、良質の医療を受ける、情報を開示される、プライバシーを擁護されるなどの、患者さんの権利が尊重されることにもなるのです。職員満足度の向上のための取り組みもまた、ブランディング活動になるのです。結論的には、Safety Management(安全管理)、Utilization Management(有用管理)などのTotal Quality Management(TQM:良質管理)などに積極的に取り組むことが必要になってきます。

とはいうものの、このブランディング活動だけでは、従来からの自己完結型の医療機関、施設完結型の医療機関などとさほど差異はないことになります。今後の医療のあり方は、自己完結型から地域完結型に転換しなくてはならないことは異論のないところでしょう。そこでアライアンス活動を、もう一つの戦略的キーワードとしてあげたのです。アライアンス活動とは、地域に存在するすべての医療機関の共存が大前提となっています。従来からは、競合とか、敵対などという言葉が地域連携に飛び交うことも少なからずあったようです。もしも地域の医療機関が共存できないとすれば、一番迷惑を被るのが地域の方々になることは明らかです。アライアンス活動のためには、医療機関としての診療機能特化と類型化などが図られなければなりません。また、地域からのコンセンサスも必要になってきます。しかも、その地域連携や医療連携とは、患者さんや地域の方々の利便性に焦点が合わされていることも重要となります。言い換えれば、地域の方々や患者さんにとっての最大限のメリットが追求され、デメリットについては極力配慮されるような地域連携システムでなければならないのです。他の病院や診療所のみならず、福祉施設、薬局、大学あるいは企業などとの積極的なアライアンス活動のもとに、はじめてネットワークが構築されることが急務ともいえるでしょう。

医療の大競争時代としてのビッグバンを迎えた今、『患者さん中心』の戦略的な医療運営に取り組むことは最も重要なことであると考えています。

そのためにも、あらためてブランディング活動とアライアンス活動について発信させていただき、皆様方とともに、高知医療センターにとりまして、素晴らしい年になりますことを念じつつ、さらなる飛躍を図りたいと願っています。

本年も、よろしく願い申し上げます。





地域医療センター：地域医療連携室

地域医療連携室では、かかりつけ医の先生から紹介患者さんのご予約を受け付けています。お陰さまで、この間、月平均約700件のご予約をいただいています。

予約受付につきましては、地域の医療機関の先生方から「できるだけ短縮を!」とのご要望をいただいております。下記の事項を改善することといたしましたのでお知らせします。

(地域医療連携室 電話：088-837-6700)

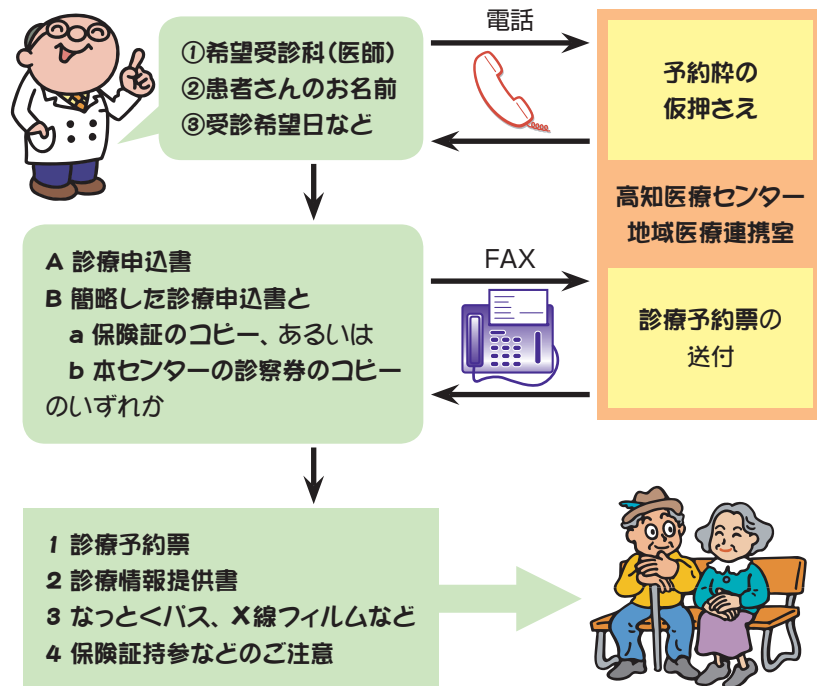
◆受診歴のある患者さんのご予約等について

高知医療センターも開院以来10ヵ月を経過し、予約患者の2~3割が高知医療センターの受診歴のある患者さんとなっています。受診歴のある方のご紹介の際に記入していただく患者さんの情報は、患者さんのお名前、ふりがな、生年月日、高知医療センターのID番号のみの記載(別紙参照)、または、本センター診察券のコピーで結構です。

◆お急ぎの場合—電話による予約(土日・休日・時間外を除く)

急いで診察予約をお取りになりたい場合は、お電話で確認していただければ、診療予約の空いている日時をお答えし、仮予約をいたします。その場合は、必ず後で診療申込書をFAXしていただくようお願いいたします。

電話から入る予約



◆診療申込書について

診療申込書を別紙のとおり、変更いたしました。診察予約の際には、様式上段の情報をお知らせいただければ予約可能となりますが、患者さんの当日の待ち時間短縮をはかるため、できるだけ保険証等の情報もお知らせいただくようご協力をお願いいたします。今後の診療予約につきましては、新しい様式をご使用していただくようお願いいたします。

◆CT・MRIのご予約について

CT・MRIの検査は、地域医療連携室で予約が可能となり、予約までの時間が短縮されています。お急ぎの場合は、お電話で予約可能な日時をお答えでき、仮予約も可能です。ご不明な点は、地域医療連携室までお問い合わせください。

地域医療連携室ご挨拶

昨年10月に、病院長を本部長とする高知医療センター地域医療連携本部を立ち上げ活動を開始しました。これまで地域医療連携については、「紹介をした際の返事が遅い」「予約システムが煩雑」「時間がかかる」など、様々なご意見・ご要望をいただいております。ご指摘をいただいた事項につきまして、一つひとつ改善に努めております。

これからもシステムの見直しや体制の整備、地域医療連携のネットワークづくりなど、地域に融合し信頼される地域医療連携室をめざしてまいります。

本年も、皆さまのご意見・ご指導をいただきますようよろしくお願いいたします。



総合周産期母子医療センター

高知県の周産期医療の向上をめざして

— お母さんと赤ちゃんの笑顔のために —



LDR(居室型分娩室)



保育器から出る日も近い赤ちゃん



集中治療を受ける超低出生体重児

明けましておめでとうございます。

2005年3月の開院以来、総合周産期母子医療センターの運営にご協力いただき誠にありがとうございました。

まず昨年3月から11月までの概要をお知らせします。産科の出産数319(月平均35.4)、母体搬送31(月平均3.3)、ハイリスク妊娠例182(ハイリスク妊娠比率57.1%)、多胎10(品胎1)でした。6月から11月までの出産数は、月に約40で推移しています。NICUと新生児部門は、入院数171(月平均16.9)、1000g未満の超低出生体重児9、1000g以上1500g未満の極低出生体重児13、新生児搬送17(月平均1.9)でした。胎児診断された横隔膜ヘルニア低出生体重時に膜型人工肺(ECMO)を使用し、手術を行いました。出生体重350gの超低出生体重児も大きくなっています。

このように総合周産期母子医療センターは、ハイリスク妊娠と重症新生児の医療に対応しています。産科・新生児科では周産期カンファレンスを開催し、関連各科(小児外科・眼科・脳外科・整形外科・形成外科)との連携を深め、医療レベルの向上と院内体制の整備を進めています。

また、高知県全体の周産期医療のレベルアップのために、10月16日には高知県周産期医療研修会を開催し、退院後の母子のフォローアップ体制の充実のため、11月16日に高知県周産期連携協議会を開催しました。これらの会はとても好評で、今後も毎年1回開催していきますので、是非ご参加してください。

多数の重症患者さんの入院のため、ベッド不足や看護師のマンパワー不足をきたし、昨年11月には一時的に入院を受け入れられない事態が発生し、先生方にはご迷惑をおかけしました。センターとしてもこのような事態を回避すべく努力いたします。が、施設やマンパワーには限りがありますので、他病院との連携を密にし、県全体として機能する周産期医療体制の整備にも努力いたしますので、ご協力をお願いします。

よい医療を行うためには自分が健康でなければと常々思っています。皆様、お体を大切にされ、共に周産期医療レベルの向上をめざしましょう。

(総合周産期母子医療センター長 吉川清志)

患者さんからの声

●医師、看護師、その他スタッフの皆さんには、大変お世話になりありがとうございました。医師から笑顔で気やすくお声をかけていただき、また、看護師の皆さんが、いつもここにことやさしく接して下さったこと、術後の傷はもとより、心まで癒されました。他院でのリハビリテーションとなりますが、おかげさまで退院することができました。本当にありがとうございました。

感謝のことば

●体調を崩し、高知市内の他病院から高知医療センターに紹介していただきました。検査入院治療となり、手術を受けることになり、大手術でしたが、医師、看護師、スタッフの皆さんに大変お世話になりました。毎日、大変お忙しいでしょうに、いつも笑顔で接して下さり、相談にも快く対応をして下さり、患者としてありがたいことでした。

救命救急センター

救急医療の質の向上をめざして



救命救急センター外来



高知医療センターヘリポート



救命救急センター集中治療室

新春のお慶びを申し上げます。

2005年3月1日の開院以降、救命救急センターに来られた患者さんは、昨年11月で1万人を越え、救命救急センターへの入院患者数も昨年末で1500人(見込)になりました。救急車で搬入された患者さんは約280人/月。また、地域の医療機関からの紹介で来院された救急搬送患者さんは、全救急搬送患者さんの30%を占めています。救命救急センターへ救急搬送された患者さんの割合は、高知市外からが約半数を占めており、とくに県東部、西部、郡部からの重症患者さんが多くなっています。

また、高知県の地勢的特徴および過疎地域の存在状況からみると、ヘリコプターによる搬送は欠かすことができません。高知医療センターの屋上ヘリポートを利用したヘリコプター搬送の件数は、87件の実績(約8割が医療センターの医師が同乗)を残しました(2005年12月5日現在)。しかし、高知医療センターまでの距離と救急搬送実績などから、ヘリコプター搬送の適応患者さんを考慮すると、

さらに約100名の潜在的な需要があると考えられます。

今後とも、ヘリコプター搬送や地域との連携(へき地医療情報ネットワークなど)を有効に利用して広域救急医療体制の構築に取り組んでいきたいと思っております。これは、災害時にもきっと役立つと期待しています。

新年を迎え、救命救急センターとして本年は、救急医療の質の向上、高度医療の提供だけでなく、さらにその“うけ皿づくり”に力を注ぐことをめざします。患者さんの診療までのスムーズな流れの確立、昨年データを基に疾患別の傾向を分析し、さらなる受け入れ体制の充実をはかります。また、救命救急センターは本来の3次救急医療に加え、高知医療センターに求められている「へき地医療拠点病院」としての機能、「基幹災害医療センター」としての機能も推進し、地域から求められる急性期病院としての使命を果たして参ります。

本年も、皆様にとってどうぞ良い年でありますように。
(救命救急センター長 福田充宏)

患者さんからの声 ———— 苦情・要望

回答

先日、救急で入院したのですが、知人が見舞いに来てくれた際、受付で問い合わせをしたところ、私の入院記録がないと言われ、面会せずに戻ったと聞きました。せっかく来てもらったのに大変申し訳なく思いました。

入院患者さんへの面会につきましては、個人情報保護法に測り、面会条件を考慮のうえご案内しています。入院患者さんご本人の許可なしに入院フロアおよび入院室へのご案内は、個人情報の漏洩にあたる可能性があります。本センターでは入院の際、入院患者さんに「面会案内に関する希望の申込」への記入をお願いしており、その希望に沿った対応をさせていただいております。

がんセンター

地域がん診療拠点病院として



新しい年になりました。昨年は、先生方との医療連携のなかで、沢山の紹介・逆紹介をいただき随分お世話になりながら、「あっ」という間に過ぎました。昨年は昨年で、凄い1年でしたが、過ぎてしまえば、また新たに今年を見つめなければなりません。

高知医療センターは高知県唯一の地域がん診療拠点病院として、また、がんセンターを併設する施設として、臨床的にも行政的にも主導的な役割が課せられています。現在、当院には悪性腫瘍を扱う医師は84名いますが、悪性腫瘍を診断し、治療する「がんセンター」に属している診療科は28診療科で、全診療科の6割にのぼります。高知医療センターの昨年の胃がん、肝がん、肺がん、結腸がん、直腸がん、乳がん、卵巣がん、子宮がんなどの「がん」の患者数は予想をはるかに上回るものでした。統合の相乗効果と同時に県民および県下の医療施設から「がんセンター」として期待され、そして信頼される度合いが非常に高いと思われました。当院の「がん」の3大治療(手術、化学療法、放射線療法)のなかで、

昨年手術件数は従来の症例数を遙かにオーバーした数を記録しました。1日に約20件の手術が行われ、その約半数が「がん」関係の手術となっていました。また最近の化学療法の進歩は目覚ましいものがあり、患者生存率はますます改善しており、高知医療センターの「がんセンター」の中核として機能してきました。さらに、放射線療法が、開院後よりいっそう充実し、「がん」に対する「リザーバー」を利用した放射線治療は、数多くの「がん」患者さんに適応され、多大な成果をあげましたが、これからもますます伸びていく予定です。

このように高知医療センターに設立された「がんセンター」は、統合という相乗的な効果によって、医学分野、医療分野あるいは看護や薬剤分野などの研究にも波及して、それらの分野の向上に貢献しようとしています。

今年も、昨年と変わらぬように何とぞ、宜しく願い申し上げます。

(がんセンター長 堀見忠司)

訂正：第2号P6、がんセンターのご紹介で医師名に誤りがありました。

「齋藤雄一」→「齋坂雄一」に訂正させていただき、関係者の方々にお詫び申し上げます。

患者さんからの声

●外来で待っていましたら、前のイスに横になっているご夫婦がいらしゃいました。順番がきましたら、医師みずからがその方のところに来て起こしていました。その光景を目の前で見まして、私まで心が和み、患者さんを思いやる気持ちがとても嬉しく、笑顔になりました。他の病院にないことです。高知県人として自慢できる病院です。

感謝のことば

●深い感動と感謝の気持ちがいっぱいです。医療センター玄関前には車椅子を用意した職員が待ち構えていました。何度か入院をしましたが初めての経験です。入院手続きを終えると、看護助手さんが風のようにスムーズにポイントを一周して入院室に到着。メモ用紙、グラフ用紙など手早く用立ててくれ、よく気が付くのに驚きました。



循環器病センター

それぞれの専門性を発揮し、強固な連携を



明けておめでとうございます。

循環器病センターは、循環器科、心臓血管外科がそれぞれの専門性を発揮しながらも強固な連携を図り、より良い結果を求めていくことが重要と考えています。

循環器科においては、救急医療の最前線に立ち、急性心筋梗塞などの急性期疾患の積極的治療に当たる一方で、カテーテルを用いた不整脈治療や、致死的な頻脈性不整脈に対する植え込み型除細動による治療に取り組んでまいります。

心臓血管外科においては、より侵襲の少ない手術をめざし、人工心臓を用いないバイパス手術を提供してまいります。また小児科循環器スタッフの充実を受けて、小児心臓病の手術に積極的に臨んでまいります。

1965年に始まった「高知県循環器談話会」は、昨年より開催場所を当院に移し毎月第3水曜日に開かれております。今年の当番幹事は山本克人医師で、症例検討の他、ミニレクチャーや心電図クイズなどの企画を考えて

おります。皆様方のご参加をお待ちしております。

今年も先生方のご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

(循環器病センター長 大脇 嶺)



患者さんからの声 ———— 苦情・要望

回答

来月の予約を取ろうと思って問い合わせましたが、予約ができないので、受診する日に来て受付をしてください、と言われました。予約が取れないのはおかしいと思う。

患者さんからの電話での診療予約はできないようになっています。来院時に、当日の診療予約をとっていただいております。また、お電話にて医療機関からの紹介予約は、地域医療連携室において承っております。





地域医療支援病院 高知赤十字病院



〒780-8562 高知市新本町2丁目13番51号
 電話:088-822-1201(代) 紹介専用フリーダイヤル
 FAX:088-822-1056 電話:0120-71-3607
 URL:http://www.krch.jp/ FAX:0120-71-3608

(診療科)

内科、神経内科・心療内科、外科、精神科、呼吸器外科、脳神経外科、
 心血管外科、小児科、産婦人科、耳鼻咽喉科、眼科、整形外科、
 皮膚科、泌尿器科、麻酔科、形成外科、放射線科、リハビリテーション科

高知赤十字病院(482床)は、昭和3年8月に日本赤十字社高知県支部療院として開設し、76年の歴史ある医療機関です。当院は平成17年8月16日に高知県から地域医療支援病院の承認を受けました。今回、医療社会事業部の前田勝恵副部長に地域医療支援病院としての承認を受けるまでの取り組みや、今後の抱負などのお話を伺いました。

Q… 当院においても地域医療を円滑にするため病診・病病連携(紹介・逆紹介)を積極的に進められていますが、高知で2番目の地域医療支援病院に承認を受けるまでのご苦労などをお聞かせください。

A… 平成16年にプロジェクトチーム(8名)を作り活動を始めました。オープンシステムをとったのは平成3年、高知では2番目とかなり早いほうでした。ただ、地域に対して“紹介型病院”と明確に打ち出していないので活動しにくかったですね。地域医療支援病院となるためには、紹介率・逆紹介率をあげることが必ずです。

Q… 具体的にはどのようなことを?

A… 紹介率をあげるため、高知赤十字病院の診療部門、看護部門、事務部門、地域医療課など一丸となって目標達成のために取り組みました。まずは顔を知っていただくことが大事と、地域の先生方を訪問しました。その結果、平成17年の3月に紹介率60%、逆紹介率30%を達成しました。

Q… 看護師長、医師のみなさんも回られたんですか?

A… もちろんです。まずそれまで敷居の高かった(と思われる)日赤が挨拶に回りだしたことで、みなさんが最初は驚かれたようですが、その後からどんどん紹介をいただけるようになりました。私たちが大切にしていたことは、まず地域の先生方の立場になることです。その上で①顔を見せる、②地域の

先生方から苦情・要望をお聞きし、いただいたご意見を院内に反映させることによって、円滑な連携をとるよう努めてきました。

Q… 構成は?

A… 現在は、医療社会事業部に地域医療課(6名)、医療社会事業課(3名)を設置し、検査予約、入院予約、診療予約、オープンシステムの利用など、前方・後方支援を担っています。同じ部屋で業務をすることにより、スムーズに情報が早く伝達できています。また、相手の気持ちになって対応することを念頭においており、地域の先生方からの信頼も得られるようになりました。



Q… 連携医療機関との交流は?

A… 年1回オープン意見交換会、3カ月に1回オープンシステム症例検討会などの勉強会を行い、地域の先生方と連携を図るようになっています。

Q… 最後に今後の抱負をお聞かせください。

A… 地域医療連携をさらにすすめ、紹介率80%を目標にすること、医療機関との役割分担をし、地域完結型医療を推進し、これからも地域の先生方の気持ちになれる地域連携をめざしたいと思います。

業務多忙のなか、快く取材に応じいただき、ありがとうございました。

編集後記

皆様、あけましておめでとうございます。

先生方のお手元には、年賀状の束と一緒に届けられていますでしょうか? 地域医療連携通信「にじ」も、この新年号で第3号となりました。本年も「にじ」編集担当職員一同は、医療センターに課せられた使命達成の一翼を担うべく、全力を尽くしたいと思っています。どうぞ、本年もよろしくお願いたします。

(編集委員 深田順一)



お知らせ

医療分野でのバランスト・スコアカード(BSC)入門講座(近日、本センターで開催)

BSCとは、1990年代初めに米国で提唱された、高度化・複雑化された企業体における業績評価方法です。本邦でも、この方法論の医療分野での活用をむけて「日本医療バランスト・スコアカード研究学会」が立ち上がっています。この入門講座を近日、本センターで開催します。ご期待ください。

地域医療連携通信

にじ 第3号

平成18年1月1日発行

発行責任者:瀬戸山 元一

発行元:高知医療センター・地域医療連携本部

編集人:地域医療連携通信編集委員・特別編集委員

高知医療センター地域医療連携室

〒781-8555 高知県高知市池2125-1

TEL:088-837-6700

FAX:088-837-6701

E-MAIL:khsc0001@khsc.or.jp

